

(別添4)

【知名町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末を始めとするICT環境を活用することで、学びは個別最適化され、児童生徒が個々のペースや進度等に応じて学習することが可能となる。また、オンラインツールを活用した協働学習も可能となり、地理的な制約を受けず、様々な人々との交流から多様な視点を取り入れた学びが実現するほか、探究的・創造的な学びを深めることで、社会の課題解決に向けた実践的な力を養うことができる。

このような環境を効果的に活用することで、学びの質を高め、児童生徒の可能性を最大限に引き出す教育の実現を目指す。

2 GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度から令和3年度にかけ児童生徒一人一人への端末の配備及び高速大容量の通信ネットワークの整備を行い、校内でネットワークに接続できるICT環境を整えた。

授業等でのGIGA端末の利用頻度については、教職員によって差が見られるが、おおむね日常的な活用が進んでいるとみられる。

一方で、端末の持ち帰り学習については、長期休業中の持ち帰りや試験的な取組はあるものの、日常的な取組には至っていない状況にある。

端末の持ち帰り学習については、デジタルドリルでの課題配布や成果物のデータ提出による確認・添削作業等、教職員の業務効率化や負担軽減にもつながっており、今後、積極的に取り組む必要性がある。

3 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期で導入した端末については、令和8年度以降更新を予定しており、今後も計画的な更新を行うことで児童生徒1人1台端末環境を継続していく。

学習支援アプリやAIドリル等についても、児童生徒の実態に応じた見直しを行い、児童生徒が個々の状況に合わせて学習できる環境を整える。さらに、不登校児童生徒や病気療養中の児童生徒等、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じた支援を実施することが可能となる。また、ICTを活用することで、オンライン学習の提供や個別指導、メンタルヘルスのサポート等、児童生徒が学び続ける環境を整える。